

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 ENTOWA	代表者	副島 孝嗣	法人・事業所の特徴	利用者お一人お一人が、社会・地域の中の一員という事を実感していただけるように、人と人、そして地域との関りを大切にしております。地域の方が気軽に足を運ぶ事のできる事業運営を行い、ぬくもりを感じられる事業所を目指していきます。
事業所名	エフ・ステージ桜馬場	管理者	藤原 祥一朗		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	人	1人	人	2人	人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	カンファレンスの時間を短縮し、午後の余暇活動の時間にあてる。	カンファレンスの時間は内容により、長くなることもあったが、概ね 30 分以内で終了している。午後に活動予定がある場合は、早めに切り上げることを意識していた。	利用者様とかかわる時間を増やそうと努力しているのは分かった。ただ、事業所内のことは把握できないことも多く、どこまで実践できていたのかはよく分からなかった。	カンファレンスの際に情報共有だけではなく、余暇活動の充実に向けた検討も行なう。
B. 事業所のしつらえ・環境	生活空間に花を飾ったり、季節に合わせた装飾を行ったり季節感を感じられるようにする。	室内に花を飾ったり、席札のイラストを季節に合わせたものに変更したりしていた。またイベントに合わせた飾りつけも行なっていた。	送迎の時に車外の風景を会話の中で伝えるようにしても良いのではと感じた。日中施錠はしていないとのことだが、一人で外に出ようとされる方もいるとのことなので、見守りには注意が必要だと思う。	定期的に外出活動（買物や散歩）を行ない、地域の方や他利用者様と触れ合う機会を設ける。
C. 事業所と地域のかかわり	地域資源を活用し、利用者様と地域とのかかわりを増やしていく。	買物活動を実施していたが、一部の利用者様しか実施できなかった。地域の方と利用者様が定期的に触れ合う機会を作ることはできなかった。	地域と積極的なかかわりは持っていないとのことだが、利用者様からの口コミで知られることもあるとのこと。そういった点も大切にしていこうと、地域に知られる良いきっかけとなるのではと感じた。	所長以外の職員も地域や関係機関と顔なじみの関係になれるよう行事や会合へ参加する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	毎月活動の担当職員を決めて計画的な活動、イベントを行なう。	おやつレクや季節ごとの行事を実行することはできたが、新しいイベントを企画することはできなかった。また、地域のイベントに出向くこともできなかった。	民生委員として地域の中で気になる方はいるがどこまでかかわれば良いかの判断が難しい。また、包括支援センターに繋げようとしても本人が拒否されることもある。そういった際に事業所として協力してもらえたらと思う。	自治会や運営推進会議の場で地域の中で困っている方がいないか情報収集を行なう。

E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議への外部からの参加者を増やす。	事業所関係者以外での参加者は自治会関係者の方と包括支援センターの方のみだった。利用者様やご家族の参加はあったが、それも限られた方だった。	他地区の民生委員でも介護保険についての知識がない方がいる。他地区の民生委員にも運営推進会議に参加してもらい、介護保険についての理解を深める場としても良いのではないかと思う。	これまで参加されていない関係機関にも声掛けを行ない、参加者を増やす。
F. 事業所の防災・災害対策	消防訓練の際は地域の方に、見学・参加をしてもらう。	地域の方の見学/参加を促すことはできなかった。	地域での防災訓練は今現在実施していない。今後何かあれば、事業所として協力をお願いすることも出てくるかもしれない。	地域の方や近隣の事業所に声を掛け、消防訓練の見学や参加をお願いする。